

良城小学校と吉敷地域が連携して人権学習の推進を

昨日夜、吉敷地区人権学習推進協議会幹事会が開かれました。

人権担当の坂野先生とともに参加し、地域の関係者と熱心な協議を行いました。

地域では、毎年2月に、人権教育講演会を開催しています。それに伴って、小学校には、作文(4年以上学年1点)ポスター(6年4~6点)、兵庫(5年4~6点)の依頼があります。今年もこれから文書が来ますのでよろしくお願ひします。※標語の締切は11月末、その他は冬休み明け)

山口市では、本年度、5年単位の地域づくり活動計画の改定期を迎えています。吉敷地域でも、来年度からの次期活動計画づくりを進めておられます。

会議では、人権教育分野の今後の取組についての意見交換がありました。

本校でも、先日、人権学習参観、講演会を開催しています。本年度は、学校運営協議会の委員だけでなく、地域の人権教育推進関係者にも開催の案内を出し、これまでにない多くの方々に来ていただきました。

昨日の会でも、「小学校の授業と講演会に参加して、取組の様子がとてもよく分かった。子どもに接し、自分も若返った。」等の声をいただきました。

また、小学校における人権教育の内容、進め方等について、坂野先生も詳しく説明しました。

人権教育は、学校で進めるだけでは十分な成果は望めません。家庭や地域と一体となって進めてこそ、子どもと大人みんなの人権が尊重される地域となり、子ども達の望ましい心の成長が図れます。

前回通信の「大人も一緒に良城しぐさ」という取組がまさに人権教育にも当てはまります。

協議では、地域と学校の連携について、



次のような具体的な意見が出されました。

- ・地域の人権研修会を学校の研修会と連携して行ってはどうか。
- ・他地域では、学校と合同開催しているところもある。合同で行うことにより、予算が何倍にもなり、著名な講師を呼ぶことも可能となる。
- ・常に合同開催するのではなく、何年かに一度の合同開催とした方がよい。それぞれの立場で必要な内容もある。
- ・各学校での研修会を、地域にも参加を一層呼びかけ、吉敷地域は、年に4回(幼・小・中・地域)多様な研修会があるという状況もよいのではないか。
- ・交流センターでは会場が手狭である。学校の体育館で開催できないか。(いつでもお貸ししますと回答。ただし、例年の2月開催だと、学校の体育館は寒くて年配者には厳しい。時期を再考する必要がある。)

本県では、「学校を核にした地域づくり」を県の施策として進めており、学校に求められる役割が変わってきています。

現在行われている学校の教育活動を、地域に開放(共同開催)していくことはそう難しいことではありません。

学校の地域貢献の一環として、出来ることから行っていきましょう。それは、子ども達の心身の成長に必ずつながるはずです。